



おいでませ!山口国体

第66回国民体育大会

空手道競技会を振り返って



ちよるる

平成23年10月8日(土)~10日(月)

ながと総合体育館

山口県空手道連盟

平成 23 年 12 月 26 日

山口県空手道連盟
山口国体競技関係者 各位

山口県空手道連盟
山口国体事務局
前島津久雄

第 66 回国民体育大会を振り返って

師走の候、ますます御健勝のこととお慶び申し上げます。平素は格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。

さて、山口国体も無事終了し、関係者の皆様から、山口国体空手道競技会を振り返ってのご意見を多数頂きましたので編集いたしました。

山口県空手道連盟の今後の発展の一助になれば幸甚に存じます。

目次

1	山下 進	競技委員長	1
2	前島津久雄	総務主任	1
3	三好良男	式典主任	3
4	住川 稔	総合進行主任	3
5	高山正樹	進行主任	4
6	齊藤和弘	場内放送主任	5
7	下田雄二	記録主任	6
8	戸坂隆男	コート主任	6
9	渡辺洋二	掲示係主任	7
10	西 伸一	選手管理主任	9
11	盛 芳昭	計量主任	10
12	横山公平	会場管理主任	11
13	山本衆司	報道主任	13
14	豊田澄江	案内受付主任	14
15	浜中博司	総合成績計算副委員長	15
16	稲田昌信	審判主任	16
17	渡辺義広	演武主任	17
18	松永玄流	練習会場管理主任	18
19	廣中公夫	審判員	18
20	西本朝生	審判員	21
21	沖野義次	審判員(国体総括委員)H23 山口国体随想録	22

1 山下 進 競技委員長

色々お世話になっています。国体の気づき・反省ですが とにかく、競技委員長・理事長として各関係者に大変お世話になりました。

特に、国体取り組みとして、また、総責任者として三本柱(①運営面の充実→日体協・県体協・全空連・地元実行委員会との事前連絡や打ち合わせ会をスムーズに運営する。

②選手強化の充実→総合優勝を目標に計画的に合宿・練習会を実施する。特に、スーパーアドバイザーの積極的な活用をする。

③資金面の確保→ 資金対策部を中心にして、各市郡連盟や各役員の積極的な働きにより、山口県体育協会の補助事業費の活用を含め、広告費・協賛金で三千万集める。) を掲げて、山口国体が大成功裏に終了するよう頑張り、予想以上に何事も大変立派に実施できたことは大変素晴らしかった。

やや、残念なのは途中体育館の照明が切れたことと、プログラムの残部が多かったことである。

また、全空連の役員の引き受けで、事前準備及び当日から三日間の接待等で大変であった。夜遅くまで係りの皆様お疲れ様でした。

笹川会長はじめ栗原副会長の三役が大変理解があったのが、理事長・競技委員長・大会副委員長としてホッとしているところです。

本当に、監督、選手一同、コーチ、執行部の皆様、競技役員の主任・係り役員、高校生の補助員そして、地元の皆様や実行委員会・・・本当にお世話になり、お疲れ様でした。

2 前島津久雄 総務主任

監督・コーチ・選手の皆様お疲れ様でした。また、サポート選手の皆様もお疲れ様でした。私生活を犠牲にされ、厳しい練習の連続でさぞや大変だったろうなと思います。

お蔭で天皇杯・皇后杯を頂きました。しっかりと休養を取ってください。

さて、私が総務主任を引き受けたのは、平成22年の春でした。長門市での中国大会（山口国体リハーサル）から始め、本格的な作業に取り組み始めたのは、千葉国体終了後です。千葉国体の反省文のとりまとめ、協議必携とりまとめ等競技役員の方と先催県のデータを頼りに行ってまいりました。

先催県の視察で皆様のご意見を頂き、編集しましたが山口国体の視察団より、この協議必携は大変良くできているとお褒めを頂きました。

数年間の国体視察は大変役に立ったと改めて思いました。

国体開催までに総合リハーサルが2回しか実施できず、その内容も各係が分断されたりハーサルでした。本番ではどうなるかと眠れない夜もありましたが、10月7日の全空連の会場視察では1件も手直しの指示がなかったようでした。

どの大会も直前視察の手直しが大変だったと聞いています。

長門市実行委員の釘物さんと全空連国体担当竹内先生との事前の打ち合わせ・確認等が功を奏したのではないかと思います。

沖野先生よりの数々の心配事項の提示を頂き、どのように対処するか、理事長はじめ競技役員の皆様方と協議を重ね、無事難関を乗り越えられました。

大会初日の停電騒動には肝を冷やしました。全空連からは日程はずらせられないと言われましたが原因が即座に分かりませんでした。コート係の島田亮介さんが、電気関係に詳しく大変なお力添えを頂きました。コートを半分使用して競技は無事終了しましたが、停電の原因は電力会社のトラブルでした。

また、2日目は皇室のお成りがあり、急きょ種目変更の指示賀ありましたので関係の係へ連絡・確認したところ、記録システムの変更が間に合わないとの大和産業の返事があり、全空連に申し出たところ、変更は変えられないとの返事で意見が対立しました。刻々とお成りの時間は近づくし困り果てました。

大和産業より、形競技でありアナログ（手書き）で行いましょうとの申し出があり、事なきを得ました。

その後は、お蔭様で協議をスムーズに運営することができました。

大会終了後、全空連よりすばらしい運営だったとお褒めの言葉を頂くことができました。大きなトラブルが2件あったにも関わらず、素晴らしい運営ができたのは、競技役員の方々が責任感を持ち自分の職責を果たされた結果だと思います。

各係で色々な問題点を処置されながらの作業だったと思いますが、前向きな気持ちで対応されたのが、急なトラブルにも対処できたのでしょう。

審判員の方からも、素晴らしいもてなしだったと大変感謝されました。

総務主任に対し、配慮が行き届かずご不満も多数あったと思ますがご容赦ください。

長い間、お疲れ様でした。

3 三好良男 式典主任

お疲れ様です。

- 1 観客席が少なく観戦出来ないとの苦情が多数。
- 2 昼食時の席が少なすぎるとの苦情。
- 3 各県連のマナーが悪い（選手・コーチが知人・子供を連れ練習会場等に、入口管理の行政職員が注意しても無視状態で何度も呼びだされました）。
- 4 式典担当としては長門高の生徒に感謝一杯です。

地元の間で委員を編成して良かったと思っております。

幾度も会議し机上・会場・長門高体育館でシュミレーションしました。

プラカードが倒れた時の予備員・入場時に女性委員により笑顔での入場の声かけ等又、大きなミスも無く私としては及第点と思っております。

*先日のメールでの経費の件ですが、資金不足の事と思しますので、こちらで掛かった経費は私が全部支払い済みですので請求はしません。

4 住川 稔 総合進行主任

空手道は総合優勝、選手の努力・頑張りと言うまでも有りませんが、山口県空手道連盟の皆様的一致団結のお蔭だと思います。

どこの役員も大変だったと思いますが、私の正直な気持ち、前島先生が一番の功労者と思っております。

さて、総合進行主任としての反省点は特にありませんが、皇室の方が何時に来られ、どの競技を見せるか、時間になったら他の競技は中断して変更するという事を事前に監督・競技役員に通達しておくべきだったと反省しております。

前島先生には長期にわたり大会準備・会議、また、大会が終わっても色々と多くの作業があった事と推察しております。

本当にご苦労様でした、心より感謝申し上げます。

5 高山正樹 進行主任

進行係の気づきです。

- ①選手招集場所ですが、少し狭かったような感じがしました。限られたスペースでの対応にはじめは戸惑いもありました。
- ②選手招集場所で、ウォームアップする選手が通路を占領して、通行者の妨げになっていたことがありました。特に形の選手は、激しかったですね(汗)
- ③選手招集場所のモニター(テレビ)はもう少し大きなモニターが必要ですね。
また、選手招集場所にモニターを設置したため、選手以外の方が椅子に座り、観ていたので、忙しいときは、困りましたね……。 (もう少し離れた場所がよさそうです！)
- ④停電には困りました……。 (仕方ありませんが……)
ただ、進行スタッフが素早く、臨機応変に対応してくれたことが助かりました。
- ⑤皇室の来訪では、競技が組手から急遽、形へ変更があり、選手からややブーイングがありました。
(一度発信した情報(試合の進行)は、極力変えない方がいいと思います。
選手への試合の影響があると思います。)

まとめ・・・ 練習をほとんどしていない状況下で、ここまで進行ができれば合格点ではないでしょうか（苦笑）
補助員の高校生も、リハーサルのころと比べるとまずまずではないでしょうか。
最後に、仕事を休んで実質、4日間国体に協力いただいた係員さんには、本当に感謝しています。

6 齊藤和弘 場内放送主任

場内放送委員の気付き

放送については、下記の点が気になりました。

1. 初日の放送において、スピーカーがアリーナ場内と場外のテレビにありましたが場外放送はほとんど聞こえない状況で施設の放送を借りて、案内をしたこと。（2日目以降は業者対応により解決）
2. 放送主任・副主任の席の確保がなかったため、来賓の方の通行に支障があったこと。
3. 皇室の来場予定の情報が二転三転して、かなりのタイムロスがあったこと。
4. 表彰について、受賞者のカメラ撮影の指示が初日になかったこと
(これは停電の影響がありますが・・・)
5. 選手入場曲の事前連絡を1ヶ月前にしていたのですが、放送担当の業者に届いていなかったため、使用できない楽曲があり選手の希望がかなわなかったこと(磯村・鈴木・橋本)

(全空連栗原氏の話により個人の楽曲は×との話でした)

実際には私の指示で禁止された曲を2曲使用していますが苦情はありませんでした。(残念ながら上記3人のみ出来ませんでした)

事前の放送原稿がかなり充実しておりましたが、長門市のアナウンス女性の機転によりかなり助けられたと思います。

全般的にみて特に大きな支障(停電を除く)があったとは思いませんでした。

以上

7 下田雄二 記録主任

まずは、無事終了できて ありがとうございます。

問題点

- 1、記録室に、あまりにも多くの係を押し込んだため、集中に欠けた。
- 2、記録室のモニターは 確認用のためなのに、観戦をする者がいた。
- 3、記録室の横の部屋が、高校生の控室でしたが、毎日 大声をだし 騒いでいた。
- 4、各係の主任は、4日間宿泊させないと 交通渋滞等で 遅れてはいけないのと、横の連携をはかる、ミーティングが必要だったのでは、ないでしょうか。

良かった点

- 1、何事もおこらず 終わったこと。

8 戸坂隆男 コート主任

国体では皆さんにお世話になりました。準備不足で不安なうちにスタートしましたが、記録係り・会場管理との連携がうまくいかず、大変だったのは事実です。

お互いの主張が相手につながらなかった事が原因でしょう。大会が始まりましたが皆さんに協力していただき、細かい問題は残りましたが、すべて協力し合いスムーズに進みました。

コート係りは全員仲良く協力し合い、各班各コートはコート長指示の元、補助員の工夫、団結で、各コートの作業の違いはありましたが、それなりにうまくいきました。

全員不平不満なく終了したことは大きな収穫でした。達成感の余韻が生じ、全員記念写真をとって、お互いの労をねぎらい解散しました。

9 渡辺洋二 掲示係主任

国体業務の反省

1. 山口国体空手道競技 担当業務；掲示係
2. 競技会場；長門市 ルネッサ長門
3. 配置人員；主任1名、委員4名、補助員（高校生）11名 計16名
4. 出欠状況； 7日（金）16名 出席
8日（土）16名 出席
9日（日）15名 出席 1名 欠席（事前連絡有）
10日（月）16名 出席
5. 業務内容；組合せ表示板（2台）への競技結果記入。
競技結果を関係部署へ配付8箇所（速報箱2箇所含む）
6. 業務状況
 - 7日㊟；掲示係全員16名が7時半に会場集合。各自で自己紹介。
主任の渡辺より業務の概略説明を行う。その後、全員で会場を見学しながら配布先部署の確認を行う。
表示板担当G、競技結果配付G、統括Gに分かれて、担当業務責任者と内容の再確認を行う。
 - 8日㊠；朝礼（山田先生より）。競技開始。
 - 9日㊡；朝礼（山田先生より）
皇室による視察。掲示係全員が通路横へ整列してお出迎え。
補助員全員で団体戦競技、チーム山口を応援。
 - 10日㊢；朝礼（山田先生より）
補助員全員で団体戦競技、チーム山口を応援。
審判員用として11競技の組合せ結果記録50部を団体競技終了後に至急で作成。昼食時に全審判員へ配布する。
競技終了。
山田先生の指揮に従い、後始末作業を行う。
反省会⇒解散。

7. 反省

掲示係は他の業務に比べると、あまり目立つ仕事ではなかったのですが、高校生11名（下関工業高校空手道部）は、黙々とよく働いてくれました。特に、組合せ表示板への記録表示に関しては、3位決定戦の選手名をテプラーで事前準備し、結果が判明次第、直ぐに掲示板へ表示することが出来るような対応を自分たちで企画し判断していました。また、優勝選手名が表示板を見れば直ぐ判明できるような工夫もしていました。

皇室の方が視察でご訪問された時、10分前以上から全員が通路に率先して整列し、お迎えしたことも非常に良かったと私は評価します。

反省すべき点は、私の事前準備不足により掲示係の待機場所が十分に確保できなかったこと。記録室で競技結果を受取り、必要数のコピー作業を行う為、どうしても記録室で待機するような状況でした。事前に記録係担当者より掲示係の待機場所は他で準備するよう、申し入れを受けていたのですが、適切な待機場所が用意できなかった私のミスです。部屋の片隅で10名以上が固まっていたので、記録担当者は良く思っていなかったと思います。この点のみが重大な反省事項です。

10日の午前、審判員用として全競技結果記録を必要部数、競技終了後に速やかに揃えて欲しいと言う依頼がありました。必要部数は50部でした。山田先生の指示の元、機敏に作業を行い彼らの力により昼食前に揃えることが出来ました。11競技の結果記録（A4サイズ11枚／部）を、競技中の団体組手終了後、直ぐに揃える作業は大変なものでした。

昼食と同時に各審判員へ配布したところ、審判員の先生方より『対応が素晴らしい！と、絶賛されました』という報告を審判員接待担当者より受けています。

9日、長門市の行政担当の方より、屋外の掲示板に競技結果が一部、記入されていないという指摘があり、大至急、対応しました。この指摘事項のみが大きな失点でした。

無事故で掲示係業務を完了することが出来ました。皆様に感謝いたします。

10 西 伸一 選手管理主任

山口国体の反省について、選手管理係から

- 背中のゼッケン、胸のゼッケン、IDカード等の確認が不十分でした。大変ご迷惑をおかしました。

選手管理の役員、選手、監督等に、必要性を徹底すること。

- 皇室来場の際の、ごたごた。

時間通りにいかない場合の対策を考えておく。

(早い時間から、予定種目の選手をコートに入れて待たしておく。)

(違う、種目を観覧してもらう。) など、

選手管理係の場所が選手控室と近いために、監督、選手からの要望窓口となっていたので、選手控室付近に、案内所の出張所を設けると、監督、選手に親切だと思う。

1 1 盛 芳昭 計量主任

計量関係の反省事項

【問題点】計量後主任（副主任）確認の押印が必要ですが、最終確認をせず、エントリーチェックに行かれた選手が数人おり、選手管理委員の方でエントリーチェック出来ず迷惑をお掛けしました。

【原因】計量所には全体案内を行う人員を配置していましたが、短時間に多くの選手が計量に来ますので対応できなかった事と動線が一線ではなく、何処からでも出入り出来る設備としていた。このため、最終確認の主任（副主任）を通らないでエントリーに行った。

【対策】不備を認識後、該当選手のカードを完全なものにした。

- ・入口は数箇所でも出口は一箇所の動線とし、必ず最終確認出来るように計量所レイアウトを検討設置する。

※このような事態を予測できなかった。

- ・監督者会議で最終確認の必要性を監督に周知する。

その他気づき

監督者、選手が計量カードの運用を認識していない不具合が下記のように有りました。（エントリーチェックもかも）

- ・必要事項の記入が無いので⇒計量委員が記載するなど時間のロスにつながった。そのため⇒計量委員の必要事項記載抜けにつながった。（判定、押印抜け等）

- ・計量カードを持参しない選手がいた。

- ・計量カードの必要性を認識されていなかった。

⇒エントリーチェックに必要なカードである。

全般

計測上の問題、時間内（1時間）に概ね終了の事は出来たと考えるが、根本的な問題点は次期開催県には伝えてより良い運営をして欲しいと思います。

選手管理の皆様には大変ご心配をお掛け致しましたが、何とか計量業務を完遂しホッとしているのが現状です。

どうも有難う御座いました。

1 2 横山公平会場管理主任

山口国体回顧録

1. 開催準備、リハーサル

小職は、当初は副主任を任される予定であったことや、仕事の都合で新潟国体や千葉国体の視察に参加することができなかったことから、実際のコート内の設営などは、当国体の申し合わせと過去の国体の映像などにより、細心の注意を図り準備いたしました。

当係の職務を無事遂行できたのは、昨年のプレ大会(中国大会)以来、前島先生はじめ各委員の皆様にも多大なるご協力をいただいた結果であり、心より感謝いたしております。

また、前週のリハーサルから、直前の総合リハーサルまで、補助員としてご協力いただいた地元の高校生のみなさんには本当にお世話になりました。当係の高校生全員の中で空手道経験者は一名のみで、他の全員が空手道を見るのは初めての状態でしたが、指示に従い良く動いていただきました。

2. 大会本番

いよいよ、係全員が準備万端との思いで迎えた本番が始まりました。しかし開会式直前に、他係からアリーナ内の副主任席の設置の依頼がなされ、その節は大変ご迷惑をおかけしました。

開会式が終了した瞬間が我々の最初の大仕事です。9分で試合開始ですのでコート設営をそれ以内の最短時間で仕上げなければなりません。おかげさまで、リハーサル通りのタイムで完成しました。しかし、他県の視察団から、競技名看板が出ていないことを指摘され、焦りましたが、当係での対応は困難なことから総務、計量委員のご協力をいただくこととなり、事なきを得ました。

その後は、形、組手のコート変更が随時必要となりますが、ここでも補助員がよく頑張ってくれました。次のポイントはコートを撤収する公開演技です。これも全員で協力し、滞り無くこなすことができました。

その後も停電による表彰式位置変更などを含め、特に問題なくこなしてまいりましたが、最終日のファイナルコート設営時、急遽12メートルの指示がなされたのには慌てました。また、審判員席も全員分とのことで、その配置も、コ

ート係の後ろはだめだとの指示がありました。

3日間の大会を終え、補助員の地元の高校生も、トップ選手の試合と県勢の躍進にすっかり空手ファンになり積極的に動いてくれました。そしてあっという間に終わった印象でした。

3. 今後の国体開催県の会場管理委員様へ(必携で網羅できない経験談)

- ・各コートに設置する競技名の看板を掲示する係を決定する必要があります。看板は相当な数になりますので、かなりの人数が必要で、会場管理委員以外の選任が必要です。
- ・ファイナルコートは、最終日、団体4回戦以降の設営のみとするのが良いと思います。当山口国体も必携や競技進行には初日にもFコート設営となっておりますが、これは行っておりません。
- ・当国体はすべて安全エリア1メートルの10メートルコートで行う旨全空連の了解を得ておりましたが、Fコート設営時、常任理事から12メートル設営の指示がなされ、リハーサル外でした。ご承知のとおり、競技用マットは解体より組み立てに相当の時間を要します。
- ・審判員は競技ごとに入退場を行う予定でしたが、当日変更で、コート張り付きになりました。この結果進行は順調に推移しましたが、選手退場後にコートの予備審判員椅子で待たれますので椅子が審判員全員分必要となりました。
- ・Fコート設営時は全審判員分の椅子を準備するよう指示がありました。この際コート係の後ろに審判席を並べないよう指示がありました。

以上

1 4 豊田澄江 案内受付主任

山口国体 おつかれさまでした
受付案内係の報告を致します

- 1 受付のスペースが 大変狭かった【テーブルが2台のみ】ので手続きに時間がかかった。
(来賓用リボン IDカード 資料など並べるスペースがない状態だった。)
- 2 視察用IDカードの件
会場内一般観客用と競技場【アリーナ】に入るカードの区別【色分けなど】工夫があれば視察に来られた方にもっと解りやすかったと思います。
- 3 監督 選手受付の件
前日の監督会議で確実に出欠等を行ってれば、監督 選手受付のコーナーの常設は必要ないと思います。
- 4 接待の件
お成りがあった為、想定外の問題が起こって慌てた。
当日、急に水屋が使用禁止となり、昼食時のお茶、汁物などの準備の手順を大きく変更せざるを得なかったが
係員の皆さんのお蔭で無事に失礼のない接待が出来たようにおもいます。
- 5 補助員の高校生の皆さんは大変良く動いていただいて本当に助かりました。
特に力仕事。パンフレット運びや
弁当の配布など。お疲れ様でした。

受付案内係員のほとんどが長門市の方で、大変気持ちよくそして臨機応変に対応して頂きました。

心より感謝しております。ありがとうございました。そして皆さんお疲れ様でした。

15 浜中博司 総合成績計算副委員長

国民体育大会（山口県開催）の気づき

1 総合成績計算委員の仕事

天皇賞・皇后賞の得点計算

<気づき>

1日目、2日目競技終了後、委員長の日下先生と途中計算のチェックを済ませておいたため、最終日では、短時間での確認を終え、サインを無事にいただくことができた。

共同通信社への経過報告の連絡

<気づき>

- ① 毎日の競技開始時刻・終了時刻の連絡は、問題なくできた。
- ② 1日目の停電について、競技が30分以上遅れた場合には、緊急連絡が必要であったが、共同通信社担当と協議し、30分以内に競技が開始されたということで報告をせずにすんだ。

(1) 共同通信社および大会本部への速報

<気づき>

- ① 各コートからのコンピュータ入力と手書き入力の成績を記録担当が、チェックし、速報として、共同通信社担当に渡すが、手書き入力のミスが多く、厳密にチェックする必要がある。コンピュータ入力にミスがあることもあり、これについては、記録担当と協議し、訂正した。
- ② 組手団体戦では、コンピュータ入力の記録が勝敗の得点（例 山口5-0東京）しかなく、業者により詳しい個人戦のデータの打ち出しをお願いしたが、できないとの返答であった。そのため、団体の個人成績は手書きの記録のみに頼ることになったが、各コートの記録方法が、バラバラでしかもミスが非常に多かったため、かなりの混乱があった。各コートに手書き入力記入例があると防げたと思う。リハーサルの時に確認すべきことであった。

- ③ 細かい点は、無視してそのまま速報にまわしたが、小さなミスもすべて共同通信でチェックされたため小さなミスも指摘され、訂正を余儀なくされた。組手団体戦では、新聞に掲載されない技ありのポイントや指導のポイントにミスがあっても、夜、大会本部から直接、副委員長の携帯に真偽を確認する連絡が入った。

2 その他

<気づき>

- ① 本来の総合成績総合委員の仕事は、各都道府県別の得点計算であり、コンピュータの入力ミスがない限りミスは起きない。そのため、そのチェック機能としては副委員長一人で十分に対応が可能である。しかしながら、今回一番悩ませたコンピュータ入力と手書き入力の確認、団体組手での手書き入力の訂正では、5人の総合成績計算委員・係担当が、フル回転での仕事となった。
- ② 送信員として1名の派遣が行政からあったが、狭い部屋の中で総合成績計算委員からの速報を共同通信担当者へ手渡すだけで、全くその必要性を感じることはなかった。
- ③ 大会終了後、最終結果を送信員に渡し、その後、大会本部から計算に間違いがないとの連絡があり、スタッフ一同安堵した。

以上

16 稲田昌信 審判主任

当初送迎の関係で心配しておりましたが、みなさんの協力のお陰で問題無く終える事ができました。審判室に関しては、秋山、三畑、芳家の女性郡の頑張り、審判団・役員の評判が大変良く、感謝されておりました。宿泊ホテルも予定通りに確保できましたし言うことはありません。各役員団の苦言が多少あったものの全般的には満足されていたと思います。

17 渡辺義広 演武主任

演武委員での気づき

演武出演者を募集するチラシを各市群連に出しましたが、何処で止まったのか、各道場（子供達）まで、連絡が行き届きませんでした。

参加したかった子供、参加させたかった親御さんがいたそうです。

県連のホームページをもっと早く立ち上げていれば、末端まで連絡が取れていたのでは無いかと…。

流派が違うにも関わらず、参加してくれた道場には感謝します。

演武練習ですが、マットを敷いて練習出来れば、子供達の立ち位置等がしっかり出来たと思います。

本番の少年演武（古武道、園児を含む）に関しては、とくに問題なく進行出来ました。

遅くなりましたが、

国体演武が大成功したのも、いろいろと相談、手配等をしてくださった前島先生のおかげです。

本当にありがとうございました。

そして、お疲れ様でした。

18 松永玄流 練習会場管理主任

「開場」を7時に設定しているのですが、6時30分に集合してみるとほとんどの県の選手が練習をしている汗もかなりかいている、集合してミーティングどころではないすぐに委員を所定の場所に着かせた。

大会会場入口の受付は、7時の開場時間まで選手たちを入れないでほしい。

※練習会場が劇場の為、場内での飲食は禁止されてもいるにもかかわらずマットの上にお茶の入ったボトルや、パッキンケースまるごと持ち込んで、1メートルもある大きなクーラーボックスまでも持ち込み、その他練習に必要な荷物を並べ立てているので何回も注意をして歩いたが返事だけでまったく聞いてくれなかった。

※通路を荷物でふさぐので困った。

19 廣中公夫 審判員

山口国体におきましては、選手をはじめ関係各位のご協力のおかげをもちまして

無事、滞りなく終えることができましたことに感謝を申し上げます。

成績につきましても、天皇杯・皇后杯ともに**優勝**を勝ち取ることができ、行政をはじめいろいろな方々にも、空手道のすばらしさを改めて見ていただけたのではないのでしょうか。

さて、わたしは審判員の立場で国体に参加いたしました。

振り返れば、わたしは、西本 松並両先生と3年前より、全国審判員資格にチャレンジしました。チャレンジしながらも国体のことが気になりつつ時間はどんどん過ぎていきました。

平成22年4月に、国体総務委員長を前島先生が引き受けていただくことになり、私の立場は気が楽になることとともに、かなりのプレッシャーも懸かってきたことは事実です。それとともに 前島先生に申し訳ないなと思うこともしばしばありました。

沖野先生の圧力もかなりの物がありましたし、全空連からの刺客（偉い先生方）のご指導もあり 絶対に合格しないと国体のときの私の立場はどうなるんだろうとも考えました。国体の強化合宿（4月度合宿）のとき、山下理事長から、山口県は全国審が少ないから ぜひ全国審に合格していただきたいとお話があり、総務委員長はどうなりますか？という話から交代劇が始まったわけです。

あらためて、いろいろとお世話になりました。感謝申し上げます。

祝賀会には、ゆっくりと一献手向きたいものです。

審判員の立場として参加しました感想を綴ります。

- 1、 リハーサルも少ない中で、滞りなく終えることができたことに驚きを隠せません。
支持命令を発信する総務委員長を中心に、各担当主任の責任感が成功裏に導いたものと確信しています。
とくに、前島先生の頭脳パソコンが威力を発揮したものではないでしょうか。総務委員長の支持通りに動けば、またその場での判断が臨機応変に対応できたことに、一番の適任者であったことには間違いなかった事実です。
- 2、 審判員担当委員の方々におかれましては、本当によくお世話をしていただきました。
審判員控え室に張り付きながらも、待機時間の予測から出番までの予測、言葉遣い、休憩時間時の対応、接待 そして急遽の送り迎えの対応、ボランティアの方々の
明るい笑顔、そして必ず1～2名は控え室で支持を待つ。審判員が競技入場口に
向かうときは必ず誰かが先導するという、気くばり目くばりはすばらしいものがあつた。必要な言葉はきちんと話し、必要でない言葉は単に発しない。
こういうところにも細かい配慮があつたと思う。
- 3、 応援団はすばらしかった。まとめ役の江水君のお父さんには感謝です。
国体を何度も経験している沖野先生の配慮にも頭の下がる想いですが、即席の応援団を、あそこまで纏め上げていただいたことに感謝です。
- 4、 残念なことは、審判員は隔離されているため周囲が見渡せないことと、
体育館全体を見ることができない。ジャッジしている審判員の技量・動き・

スピード・判断力

等に目を凝らしたものです。国体審判員の威厳（コート長レベル）は素晴らしいものがあり、個々の持つプライドというものもちらちらと見えました。

- 5、 若い審判員は、技とみるか？反則とみるか？・・・まだまだだな。という場面もありました。（某先生いわく）いわゆる国体のジャッジは通常の全日本大会とは違うんだよ、ということでした。だから、国体開催権が優勝できる本当の事実がそこに隠されている ということです。
- 6、 わたしは3月末で事務局長を辞任しようと考えています。
理事長が事務局長を指名する権利がありますので、わたしから指名はできません。
しかし、2月ごろに理事会ではなく相談会？でも開いて、ある程度のたたき台は
作成しておかないと 次に役員に就かれた方々は大変になります。
われわれが全員辞職ということではないと思いますので、時間を調整してしっかりと議論すべきだと思います。
- 7、 私事で申し訳ありませんが、全国審判員に合格したときは素直に喜べました。とくに、西本・松並両先生とともに3人が合格できたことに感謝です。沖野先生、前島先生、そして津山先生、たくさんの関わりを持った先生方に感謝です。 最後に、国体が終わって私に「国体お疲れ様でした。お世話になりました。これからもよろしく願いいたします」と電話連絡があったのは **橋本選手**だけでした。
国体成績はよくなかったが、私が一途に推薦した選手で間違いなかった。と確信できました。

20 西本朝生 審判員

国体の気づきを簡単にご報告いたします。

1. 競技は特に問題なく、順調に推移しました。
2. 審判係は人数が少ない上に競技役員の送迎に行くことが多く、大変だったようです。

私達、派遣審判員も急遽、送迎するケースが発生し、審判係はもう少し余裕のある人数が必要であると感じました。

3. 審判控室での審判係の対応は素晴らしく、細かい配慮がなされ、審判員も好印象であったようでした。
4. 審判員が送迎バスに乗り込む際、名前と顔がわからず、乗車を確認するのが大変でした。

また、白木屋からレセプションに行かれる際はぐちゃぐちゃになり、冷や汗もんでしたが、何とか乗り遅れの先生もなく、ホットしました。

全般的には大きな問題もなく、進行も停電以外は大きな遅れもなく、成功だと思います。

競技終了後、審判の先生方も満足そうに家路に着かれておられました。

みなさん、大変、お疲れ様でした。

2 1 「おいでませ山口国体」＜君の一生けんめいに会いたい＞

【空手道競技随想録】

沖野義次山口国体総括委員

平成23年10月吉日

山口国体空手道競技関係者 各位

山口県空手道連盟

副理事長・技術委員長・国体総括委員

沖 野 義 次

「おいでませ山口国体」<君の一生けんめいに会いたい>

空手道競技に関する随想録について

秋冷の候、関係の先生には、ますますご清栄のこととお喜び申し上げます。

さて、10月8日から3日間にわたり開催されました「おいでませ！山口国体空手道競技会～君の一生けんめいに会いたい～」では、先生方に多大なご尽力をいただき、大成功の内に大会が終了したことに対し、厚くお礼申し上げますとともに、皆様といっしょにこの感激を分かち合いたいと思います。

県をあげた皆様の総力のお陰で、山口県選手団は、天皇杯・皇后杯を獲得することができました。感無量でございます。また、空手道競技の総合優勝の結果、山口県全体が総合優勝、天皇杯・皇后杯獲得が内定したこともあり、県知事以下、関係者一同、感激と興奮の渦の中、県連盟に感謝の言葉をいただきました。

また、多くの中央役員の先生方から、励ましの言葉・お礼の言葉・今後の山口県連について、お手紙・はがき・電話をいただきました。県連のすべての先生方の、中央役員・審判のおもてなしは、多くの先生方から感謝されていました。ありがたいことです。

我々は、10年という長い年月をかけて、この山口国体空手道競技の成功に向けて協議・運営をすすめて参りました。50年に一度という大変貴重な経験をさせていただきました。このことは、今後、次世代を担う人材育成のためにも、何らかの形で記録を残さなければいけないと思い、若輩ながら、「随想録」として、私の記憶のある限りを書かせていただきました(文面には残せない出来事もたくさんありますが)。諸先生方に失礼な文面もあるかと思いますが、お許しいただきたいと思います。

また、各先生方で、それぞれの担当部署等で苦勞されたこと、残しておきたいことがたくさんあると思います。是非、次世代のために記録を残していただきたいと思います。

「おいでませ山口国体」<君の一生けんめいに会いたい>

空手道競技随想録

記録者 沖野義次
(県副理事長・技術委員長・国体総括委員)

1 山口国体が内定して

当初、山口国体空手道競技の開催地決定には、県体育協会からの調査があり、県連盟としては、小郡町(現在、山口市)を第一候補、市町からは小郡町が空手道競技を第一候補に挙げ、競技団体と市町が一致したため、内定したかのようでしたが、小郡町は市町合併を前にして、町民体育館の新築・増設計画は取りやめ(当初は、町民体育館を新築する計画がありました)との通知がありました。そのため、小郡町長と協議をしましたが、決定までに至りませんでした。

その後、長門市から空手道競技を候補としてあげていただき、長門市での空手道競技決定に至ったわけです。

私は、奈良国体から京都国体まで選手として出場させていただきました。国体選手を引退後、監督として、山形国体を初めとして福島・広島・神奈川・熊本・富山・宮城・高知・静岡・埼玉の各国体に出場させていただきました。当時は、まだ空手道競技はマイナーな競技で、選手団は民泊等が多く、人口1万人前後の町での開催が中心でした。山口国体が平成23年度に開催されるとの情報を得てから、過去の開催県から、あらゆる情報を収集いたしました。その中で、ほぼ共通した情報は、「国体を開催するに当たり、競技団体で最低3,000万円の経費は必要である。」ということでした。

県理事会で、「山口国体開催に当たり、最低3,000万円の経費が必要です。」との提案をいたしました。当初は、なかなか受け入れていただけませんでした。

しかし、時間が経過するにつれて、県内の他競技団体からの情報も入ることにより、経費が必要とのご理解をいただきました。

2 山口国体開催前の5年間

その後、山口国体に向けての暫定的組織改革を行い、新組織で運営していくことになりました。新体制の中で、廣中先生に無理を言って事務局長を受けていただくことになり、大変感謝いたしております(最初は、何度も断られましたが)。私は、これで国体に向けて邁進できると確信しました。それからは、トップアスリート事業を事務局(廣中先生・小林先生)・審判委員会(前島先生)・技術委員会(沖野・斉藤先生)で分担し、着々とすすめていきました。

その間、多くの空手道に携われ、県連盟に貢献された先生方が、この山口国体開催を前にして、他界されました。おそらく、非常に無念だったと思いますし、私も残念ではありません。その無念を、総合優勝で報いることができたと思うと、胸が熱くなります。

私は、山口国体を前に他界された先生の写真をご家族にお願いし写真を借用いたしました。開催期間は審判員として参加させていただき、その写真を胸ポケットに入れて、一緒に審判をさせていただきました。

山口国体に向けての監督・コーチの人選も理事会で承認を受けました。監督：水野健一先生、組手コーチ：藤井栄治先生、形コーチ：野村巧先生の3名です。このメンバーで国体まですすめていくことになりました。しかし、国体に向けての選手強化は、思うようにいきませんでした。強化指定選手は、「5年前までは、各種目4名選出」、「2年前までは、各種目3名選出」、「1年前からは、各種目2名選出」と技術委員会が提案し、県理事会で決定しましたが、各種目の選手が不足(実力不足)、選手は選出はしたが全空連の会員証を取得していない、段位を取得していない等の問題もでてきました。

また、監督・コーチに依頼していた「選手の合宿参加の有無・庶務会計等」は、3名ではできないとの申し出があり、大変悩みました。このままでは、前に進まないのも、無理を承知で、技術委員会事務局の斉藤和弘先生に県選手団の庶務を頼みました。斉藤先生は、私の運営している道場(真和館)の主任指導員という関係もあり、「すべての合宿等に参加することはできないが、庶務会計は引き受けましょう。」との承諾を受けました。これで、県選手団の連絡掌握は確かになり、一つの課題を解決しました。

さて、開催4年前の日本武道館で開催された「全日本空手道選手権大会」の時、私は審判で参加していたのですが、藤井栄治コーチ(山口県選手団コーチ)から、「井淵選手が山口県に就職したい。」という話を受けました。県連盟理事長に相談し了解を得て、後日、近畿大学空手道部木島明彦監督に連絡を取り、近畿大学構内で会談することにしました。その際には、県体育協会から2名の職員の方(清水広介主幹・周山泰之主任)が同行していただきました。井淵智選手とも面会し、彼の意思も確認しました。その後数回会議をしましたが、廣中公夫事務局長、藤井栄治先生(井淵選手の大学の先輩に当たる)、県体協職員の同行のもとで協議し詰めていきました。井淵選手は、山口大学の聴講生として高校体育の免許を取得し、山口県の公立高校教諭の試験を受けましたが、二次試験で残念ながら不合格になりました。翌年の採用試験に向けて、県体協周山さんが勉強会を開いてくれる等、猛勉強の一年でした。そして、翌年は採用試験に見事合格し、晴れて山口総合支援学校教諭として採用されました。県体協の方には、大変お世話になり、感謝申し上げます。

鈴木ゆかり選手も、同じように木島監督・本人と協議の上、山下進理事長のお世話で、「藤光かまぼこ」に就職することができました。

また、山口県体育協会の専務理事：竹下隆信様・常務理事：佐竹博様には、西村洋輝選手(東大卒)の件を始め全般にわたり大変お世話になりました。この場をお借りし、厚くお礼申し上げます。

3 山口国体開催前の2年間

中央役員・審判等の宿泊については、以前から役員A(会長・副会長・専務理事)と役員B(常任理事・相談役・資格審査員等)とA級審判員の宿舎は、それぞれ別にしてほしいとお願いしていました。「過去の国体で宿舎がいっしょのことが多く、審判員は気を使いすぎた。また、役員もAとBでは、分けた方がよい。」等のことを、いっしょに国体審判をする先生方から聞いていたからです。前島先生・稲田先生には、大変ご迷惑をおかけしましたが、想定通りの配宿となりました。

2年前には、スーパーアドバイザー津山捷泰先生を全空連にお願いし快諾いただき、1年ごと2年間の契約をしました。それまでは、指導講師として数回山口県のご指導をいただいております。

また、津山先生の了解のもと、形の指導者に井上慶身先生もお願いし承諾を受け、契約をしました。平成22年度(開催前年度)には、成年男子形:長谷川匠選手の師である、長谷川行光先生にも長谷川匠に対し、1年間の個人指導をお願いし、契約をしました。

当初、山口国体に向けての予算書を提案しておりましたが、具体的な予算書が必要とのことで、再編成した予算書を作成し提示しました。国体開催年度になり、直前の詳細な予算・決算書については、前島津久雄先生(総務主任)が受けていただき、再編成され、引き継いでいただきました。

津山先生の指導の下、強化合宿をすすめる中で、問題が生じてきました。「強化合宿は、毎週でもしなさい。」という指示をいただいたのですが、「経費をどうするか・参加者はあるか。」という問題です。月に1~2度の合宿ですら予算が大変なのです。パルトピア防長青年館の参与が、私の同級生ということもあり、格安の金額で宿泊契約ができました。次の課題は、食事代です。当初は、パルトピアに付属している「いちやなぎ」で食事をしていたのですが、金額の割に食事内容がよくなかったのです。飲食店とホテルは別経営なので交渉は不成立に終わりました。そこで、ホテル翠山荘の支配人と交渉し、格安の金額で食事ができるように契約できました。交渉後の支払・連絡・人数確認等は、県選手団庶務の斉藤和弘先生が携わってくれました。参加者の確保については、斉藤先生と連絡を取りながら調整をしてきました。

第2弾は、審判員養成です。強化合宿に合わせて審判の研修もしてきました。審判の参加者が非常に少ないときもありました。その中で、前島先生・廣中先生・西本先生・松並先生・友弘先生、石丸先生が最後の開催年まで積極的に参加されました。発声練習・ジェスチャー練習・主審の立つ位置等を練習しながら、強化合宿で組手試合形式の練習をさせていただき、審判技術を磨いていきました。津山先生にもご指導を

いただき、確実にレベルが上がってきました。

開催1年前、副理事長としても強化合宿に参加されていた前島先生が、「廣中さんが全国審判を受審するならば、私が国体の総務主任を受けよう。」と言ってくださったのです。過去の開催県では、県連の事務局長が国体時には総務主任をしているからです。前島先生は、職場を退職後、再任用も受けずに、国体の総務主任に徹せられたのです。誠にありがたいことです。この1年間、寝る暇もなかったことと思います。「倒れられなければよいが。」と心配しておりました。国体の総務主任は、国体運営全般（国体開催前後の運営・開催期間の運営すべて）に対して、すべてのことを網羅熟知しておかなければならないからです。莫大な仕事量です。大会開催中は、各主任が担当する内容を網羅熟知し、総務主任へは連絡のみで各主任レベルで解決すれば大会はスムーズに流れるのです。私は微力ながら、前島先生と連絡を取りながら、可能な限り作業をお手伝いしてきました。

さて、前島先生の言葉を受けて、廣中先生・西本先生・松並先生・友弘先生も「絶対、全国審判に合格する。」という覚悟ができたことと思います。その後の、審判の先生方の積極的な練習がとても印象的でした。その後、石丸先生は、地区審判に合格され、めきめきと審判技術を向上されました。また、大会期間は審判委員副主任の係につかれ、審判控室の対応について、事前の準備から大会期間中、すばらしいご配慮をされ、審判員の全てが満足されて帰られました。ありがとうございました。

山口国体開催の前年度5月16日(日)には、「第48回西日本大学空手道選手権大会」を山口県維新公園記念体育館で開催しました。この大会は、関西・九州・中四国地区で持ち回りで大会を開催するもので、この年度は中四国地区で開催することになり、西日本学生空手道連盟役員の先輩方の強い要望もあり、山口県開催となりました。山口国体リハーサル大会に備えての大会運営もできるということで、山口県連理事会でも承認を受け開催することにいたしました。私は、中四国学連の審判長で、この大会では審判長を務めさせていただきましたが、山口国体での山口県連の各担当の先生方にも、多大なご尽力をいただきました。運営面でも、いろいろな課題が見えてきたと聞いております。誠にありがとうございました。

次いで、7月24日(土)・25日(日)には、「第32回中国地区空手道選手権大会兼第66回山口国体リハーサル大会」を、国体開催地「ながと総合体育館」で開催いたしました。大会運営について、まだまだ課題が多く残ったと聞いております。

一方、山口国体本番までに、前島総務主任の指示の下、全体打合会や係ごとの打合会が開催されました。50年に一度の大会です。運営に関しては、誰ひとり経験者はいないので、大変です。私が、国体審判に行き承知していることは、たかが知れています。大分国体・秋田国体・新潟国体・千葉国体の内容を各係の主任レベルの

先生方が視察されました。その成果がどれだけ出るか？各県によって実情が違うので、全く同じにはいかないのですが、その視察内容が一番の宝となります。

4 山口国体開催の年(平成23年)

いよいよ、山口国体の年です。

山口県選手団は、毎月一度、土日を国体強化合宿にあて、津山先生と日程調整をしながら、選手強化をすすめてきました。

(1) 1月15日(土)・16日(日)「国体強化合宿」<山口鴻城高校>

フランスにおいて「オープン・ド・パリ」開催のため、スーパーアドバイザー津山先生欠席の中、強化合宿をすすめました。

(2) 2月5日(土)・6日(日)「スポーツ指導者研修会」<山口鴻城高校>

講師は、栗原茂夫副会長・荒川通先生・津山捷泰先生・香川政夫先生・佐々木清巳先生の5名の先生です。空手競技規定・形の基本指導法・基本技立ち方移動等について指導がありました。国体開催年ということで、県連盟役員の先生方との顔合わせも含めて実施しました。

(3) 2月12日(土)・13日(日)「国体強化合宿」<山口鴻城高校>

津山先生の配慮で、京都府連選手団と合同強化合宿を開催いたしました。

(4) 2月19日(土)「津山先生厚労省受賞祝賀会」<京都>

県連盟より、理事長・副理事長及び全国審判を受診する4名(廣中・西本・松並・友弘)が参加し、全空連関係役員の先生方にご挨拶をいたしました。

(5) 2月20日(日)「山口国体合同会議」<ながと総合体育館>

前島総務主任の説明をもとに、山口国体大会運営について協議されました。

(6) 3月19日(土)・20日(日)「国体強化合宿」・「予算会議」<山口鴻城高校>

津山先生指導の下、強化合宿をすすめました。日曜日には、山口国体予算会議を開きました。

(7) 3月27日(日)「県連盟理事会・総会」<セミナパーク>

山口国体に向けての、収支決算・予算について、また、各市郡連の分担金等について協議されました。

(8) 4月10日(日)県連盟主催「審判講習会」<山口鴻城高校>

例年の審判講習会に加え、全国審判を受審する先生方の最終調整の練習会となりました。

(9) 4月16日(土)・17日(日)「全国組手審判審査会」<大阪府立体育館>

沖野はAランク受審、廣中先生・西本先生・松並先生・友弘先生・藤井先生・田中先生の6名が、新規受審で受けられました。結果は、沖野はAランク合

格、廣中先生・西本先生・松並先生・友弘先生・藤井先生の5名が新規合格者となりました。誠におめでとうございます。5人とも見事な審判ぶりでした。

審査後、津山先生から「5人合格したぞ！過去、開催県の審判が一度に5名合格することはないぞ。沖野！」という電話をいただきました。大変ありがたいことです。津山先生のご尽力に感謝申し上げます。

これで、山口国体時には、山口県から派遣審判依頼(4名)ができると安心しました。(開催県の派遣審判は全国審判の資格を必要とするのです。)

私は、平成22年11月に開催された「全日本大学空手道選手権(日本武道館)」の準決勝戦(大正大学対駒澤大学)での主審の際に、アキレス腱を断裂したため、リハビリをしながらこの全国審判ランク付けに向けて、調整していましたが、Aランクに合格して、正直ほっとしました。

(10)4月23日(土)「中国地区協議会幹事会」<岡山>

山口国体に向けて、中国地区協議会・中国地区5県・中四国学生空手道連盟から支援をいただくことを確認しました。

(11)4月30日(土)・5月1日(日)「国体強化合宿」<山口鴻城高校>

(12)5月15日(日)「①山口国体運営主任会議」<セミナパーク>

(13)6月18日(土)「国体強化練習」<山口鴻城高校>

(14)6月19日(日)「山口国体代表選手選考会」

「全国少年少女選考会」<美東体育館>

(15)6月24日(金)「広告依頼」<長門市>

全空連竹内先生に「飲食業界等も広告依頼はよろしい。」との確認をとり、長門市連に「市内の飲食関係の店に広告依頼をされたか。」を問い合わせたところ、「広告依頼をしていない。未定。」との回答が返ってきました。全国46都道府県から来県される選手団は、ホテルの食事とは別に、飲食に必ず外出します。長門市は、空手道開催地でもあるため、飲食業界の広告が必要と判断しました。

幸いにも私は、長門市に2年間(H19・20年度)単身赴任で長門市立浅田小学校に勤務した関係で、山口国体に備えて飲食店関係は26軒程度確保していました。

また、空手道の普及に向けて、小学校の「総合的な学習の時間」を活用し、小学4年生から6年生の3学年にまたがり、空手道の指導をしてきました。三隅地区の文化祭では、詩吟(指導者:浴田和拓講師)にあわせて演武を披露してきました。私の転任後は、空手道の指導は、山下理事長に引き継いでいただきました。

午後から妻の運転で、長門市内飲食店の広告依頼に出向きました。転任して2年間 の内に、かなりの店が閉店していたり、不景気で広告を断られた店もありましたが、なんとか昔の付き合いで広告を取ることができました。と同時に、審判員等の接待の 仮予約もいたしました。

(16)7月10日(日)「②山口国体運営主任会議」<セミナパーク>

後、打ち合わせをする機会が少なくなっていく中で、各主任の先生方の役割が重要だと、強く感じました。

(17)7月16日(土)・17日(日)「国体強化合宿」<山口大学附属特別支援学校>

強化練習の後、中央から山口入りされる先生方をお迎えし、ホテルニュー田中において、県連盟の役員と懇親会を開き、本県の山口国体に向けた熱意をご理解いただきました。

(18)7月17日(日)「中国地区協議会主催:中央審判講習会」<山大附属支援学校>

講師は、津山先生を初め、山口国体で、審判長を務められた西川吉重先生・副審判長を務められた阪梨學先生・同じく副審判長を務められた原口高司先生・Aコート 長を務められた佐々木清巳先生・Cコート審判員を務められた丹下勝則先生です。 それに、主催者の中国地区協議会議長波多先生・幹事長の青山先生です。私は、A級ですが山口県なのでアシスタントです。

初めに、山口県代表選手の紹介を行いました。その後、選手は形の分解等の指導を受け、審判は主に組手審判について指導を受け、午後試合形式で審判技術を向上させました。

(19)7月23日(土)・24日(日)「第33回中国地区空手道選手権大会」<岡山>

この大会は、県代表の小中学生も入っての大会ですが、国体種目(高校生以上の組手・形競技)に限ってみると、山口県は総合優勝のポイントを獲得していました。今まで、岡山県が16年連続優勝しておりましたが、それを上回るポイントでした。山口国体に向けての選手強化の成果が出ていると実感しました。

(20)7月30日(土)「形特別指導」<山口平川公民館>

7月17日の中央審判講習会で指導いただいた先生方から、いろいろな助言をいただきました。その助言については、各選手に伝え、国体に向けて最終調整するように指示しました。その中で、「ある形について、どうも気になる部分があるから、特別に指導してもよい。」という電話をいただきました。

最初は、東京に出向いて指導を受けさせる予定でしたが、講師の先生と連絡調整をした結果、先生のご好意で、山口まで来ていただき指導を受けることになったのです。1日の指導でしたが、密度の濃い指導をいただき、選手は満足したようでした。その成果が、山口国体に好成績として出てきました。

(21)8月6日(土)・7日(日)「国体強化合宿」<山口鴻城高校>

津山先生指導の下、強化合宿をすすめました。津山先生には、毎回、強化合宿でご指導をいただき、ハードスケジュールで大変申し訳なく思っております。

(22)8月7日(日)「山口国体最終選考会」<山口鴻城高校>

下記の選手が、「代表選手」「第二次候補選手」「選手団サポート選手」に決定しました。

山口県代表選手	第二次候補選手
①少年男子組手 山 縣 弘 朋	洪 水 勇 太
②少年女子組手 仁 美 香奈絵	秋 山 実 祐
③少年男子形 藤 田 健太郎	川 本 善 也
④少年女子形 磯 村 美 季	原 田 知 美
⑤成年男子形 長谷川 匠	土 田 大 介 (欠席のため)
⑥成年女子形 中 廣 一 恵	山 添 エリ佐
⑦軽量級組手 橋 本 憲 治	河 野 晟 夫 (欠席のため)
⑧中量級組手 宮 本 尚	森 岡 康 成
⑨重量級組手 井 淵 智	
⑩成年女子組手 鈴 木 ゆかり	沖 野 春 菜
サポート選手	
石 野 雄 碁	
沖 野 春 菜	

(23)8月14日(日)「大和産業合同会議」<ながと総合体育館>

午前中に、業者との打ち合わせをしました。

(24)8月26日(金)「山口県選手団結団式」<山口市民会館>

(25)9月17日(土)～19日(月)「国体強化合宿」<山口鴻城高校>

国体前、2泊3日の強化合宿を開催しました。

(26)9月23日(金)～25日(日)「国体強化合宿」<山口鴻城高校>

17日に引き続いての、2泊3日の強化合宿です。選手団も、本番前の緊迫度が増してきました。

今回も、津山先生の配慮で、京都府選手団と最後の合同合宿を行いました。数回に渡る京都との合同合宿で、山口県の選手たちは、京都の選手たちととても仲がよくなりました。山口国体最終日の団体戦決勝(山口対大阪)では、京都府の選手たちが、山口県の応援団席に座って、一緒になって山口県の応援をしてくれたそうです。選手同士のつながり・融和ができ感動的でした。

(27)10月1日(土)「山口国体総合開会式」<山口維新記念陸上競技場>

私は、総合開会式に出席した後、長門入りしました。長門市民に、声援の依頼をするためです。

長門市の山口国体引受競技は、「少年ラグビー」「空手道」と「自転車」です。市内の小中学校に問い合わせたら、少年ラグビーへの観戦は、市のバスを出しての応援が計画されていましたが、空手道競技への応援は、三隅中の10日最終日の徒歩での自由応援のみで、他の小中学校は、「観客席が少ないので入場できないかもしれない。」という行政からのメッセージがあったと聞くことを聞きました。

国体空手道競技は、他の空手道選手権と異なり、開催県の会場での熱い声援で勝敗が異なる空気をもっています。津山先生からも、幾度となく応援について指導がありました。これではまずいと思いました。

そこで、長門市役所総務浴田和拓部長様(浅田小勤務当時の講師)、中野明彦様(浅田小勤務当時のPTA会長)にお願いし、長門市民30名近くを集めていただき、10月1日に、「応援の説明会」を開催しました。当日、国体総合開会式があり、選手団は参加しましたが、長門市に在住している国体選手の宮本尚選手・鈴木ゆかり選手に声をかけたところ「喜んで参加します。」との返事をもらい、開会式終了後、説明会に参加してもらいました。応援の説明後、懇親会を開きましたが、宮本・鈴木両選手が参加したこともあり、「山口県が優勝するために、一人が最低5名以上呼びかけ市民を集めて必ずみんなでも応援に行く。」と確認していただく等、大変盛り上がった説明会になりました。

(28)10月2日(日)「山口国体最終リハーサル」<ながと総合体育館>

この日は、国体運営関係者・補助員(高校生含む)が、すべて参加してのリハーサルとなりました。前島総務主任の説明後、具体的なリハーサルは各主任に任せての進行となりました。練習は、この日しかないのです。全員が、それぞれの役割を確認してのリハーサルとなりました。

(29)10月4日(火)「県選手団調整合宿開始」<宿泊:湯免観光ホテル>

選手団は、この日から最終調整合宿に入りました。監督・コーチ・選手が一枚岩になっての最終調整です。

私は、選手の練習の様子を確認後、まず、出向いたのは、長門市教育委員会教育長室:江原健二教育長様です。国体の空手道会場の雰囲気伝え、「会場が割れんばかりの声援がないと勝てる試合も勝てない。小中学校の声援をお願いしたい。」とお願いに上がりました。印刷した応援方法・試合日程等を提示し説明いたしましたところ、教育長は納得していただき、各学校にその場で電話をして8日から10日までの3日間の声援をするよう指示していただきました。

4日(火)から6日(木)にかけては、長門市内の小中学校17校をすべて訪問し、

印刷した応援方法、山口県選手が出場する日時・コート表を、学校で印刷して全校児童・生徒に配布してもらい、3日間バランスよく声援にきていただくようお願いしました。各校の校長先生は、山口県優勝のため、快く引き受けてくださいました。誠にありがとうございました。我がよき同僚に感謝いたします。

(30)10月6日(木)「全空連3役長門入り」<大谷山荘>

6日(木)の夕方には、全空連栗原茂夫副会長・有竹隆佐専務理事・日下修次総合成績委員長の3名が長門市入りされ、山下理事長・前島総務主任が対応されました。最終調整合宿の指導に入られた津山スーパーアドバイザーと井上講師の2名は、調整合宿指導の後、廣中先生・松並先生・友弘先生が対応しました。

北海道から2グループ長門市入りされ、前泊の審判員3名は稲田主任審判委員が対応しました。同じく別便で長門市入りされた前泊の審判員5名は沖野・西本先生で対応しました。この内の4名の審判員の先生対応に、翌日(7日)早朝から西本先生が車を出し、随行していただきました。

5 大会前日<10月7日(金)>

7日(金)は、競技役員・運営委員の先生方が、大会会場に集まり、最終チェックをしました。栗原副会長も会場を視察され、ゴー・サインが出ました。また、前日から大和産業も放送器具等を搬入し、各担当者と最終チェックをしました。

県役員担当の先生方は、宇部空港・新山口に続々と到着される中央役員の先生の迎えのために、稲田先生を初め審判・掲示担当の先生方は、フル稼働で対応されました。交通の便が悪い関係もありますが、「おもてなし国体」の文字通りの対応に、中央役員の先生方は満足・感謝されていました。

大会中央役員・審判の先生方には、山口県空手道連盟からの記念品として「萩焼の夫婦湯飲み茶碗」を選びました。山口県の特産品はいろいろあるのですが、前島総務主任と協議し、代表的な物と予算に匹敵する物に配慮し、総合的に考えて決定しました。事前に、3つのホテルのフロントに人数分置かせていただきました。7日、中央役員・審判がチェックインできる時刻に、稲田先生にお願いして部屋に置いていただきました。

午後4時から審判会議が開催され、前島総務主任の進行の中、西川審判長の説明で終わりました。

午後5時から監督者会議、午後7時からレセプションが開催されました。前島先生は、総務主任としてそれぞれの会議・懇親会の司会進行役の大役を果たされました。大変な苦勞だったと思います。レセプションでは、県連役員は、ご臨席いただいたすべての中央役員・審判に「ようこそ おいでませ、山口へ！山口

県をよろしく願いいたします。」と、あいさつをしてみました。

二次会は、中央役員(常任理事・相談役資格審査員等)の方は白木屋グランドホテルで行い、山下理事長・横山先生・渡辺先生で対応しました。大変盛り上がったと聞いております。

審判員はホテル西京で行い、沖野・廣中先生・西本先生・松並先生・友弘先生・稲田先生で対応しました。審判長・副審判長を含め、山口県がんばれムードで会がすすめられました。

6 大会初日<10月8日(土)>

8日(土)、いよいよ、空手道競技開始式、続いて試合開始です。開始式は、前島総務主任指示の下、スムーズに進行しました。井淵智選手と中廣一恵選手の2名が堂々たる選手宣誓をしてくれました。事前に手渡した原稿をしっかりと頭に入れ、県陸上競技場で開催された総合開会式の選手宣誓より、立派な宣誓をしてれたことに、胸が熱くなりました。

大会終了後、中央役員Bグループの先生からお聞きしたのですが、「当日、会場受付で役員自ら受け付け名簿に記名を求められ、プログラムや記念のネクタイ等、何ももらわなかった。」ということでした。このことは、詳しく調べて行かなければいけないと思います。

初日は、組手男子軽量級・中量級・重量級、成年女子組手、少年男子形・少年女子形の試合が開催されました。中量級宮本尚選手・重量級井淵智選手が準優勝、成年女子組手鈴木ゆかり選手が4位入賞、少年男子形藤田健太郎選手が準優勝、少年女子形磯村美季選手が3位入賞と好成績を残しました。1回戦ごとの試合結果を、渡辺洋二掲示主任から審判委員の石丸先生を経由して、随時私の手元に情報を提供していただきました。山口県の総得点と他県の総得点を計算する必要があったからです。選手管理主任の西伸一先生にも無理なお願いを申し上げ、大変ご迷惑をおかけしました。感謝しております。

初日の終盤に、ハプニングが起きました。体育館の照明が急に消えたのです。試合は一時中断し、原因を究明されましたが、体育館側も原因がわかりません。約1時間程度経過したでしょうか。体育館後方の照明がつかまりました。しかし、前半分の照明は消えたままです。前島総務主任の的確な判断で全空連との協議の結果、後ろのコート(C・Dコート)で、残る試合を実施することになりました。その関係で、初日の競技終了は午後8時近くまでかかったのです。翌日、「会場近くの民家で電気関係の事故があり、その関係で、体育館の照明が切れた。」とのことで、原因がはっきりしました。後日、前島先生の話では、体育館管理責任者が常駐して

いなくて、原因説明が遅くなったとのことでした。

初日には、山口県選手が得点範囲にそれぞれ入賞することができましたが、安心できません。大阪は、山口県と同様、形選手もフルエントリーしており、組手個人・団体組手・形においても上位入賞可能者ばかりだからです。また、京都は組手中心ですが、油断できないチームです。大会前から、山口県や他県の総合得点を想定し、津山先生から助言をいただきながら組んできた一覧表とのにらめっこです。要は、団体戦です。

中央役員の方(常任理事・相談役・資格審査員が中心)は、夕食後、大谷山荘で懇親を深められ、山下理事長・横山先生・渡辺先生が対応しました。

7 大会2日目<10月9日(日)>

2日目は、少年女子組手・少年男子組手・成年男子形・成年女子形と組手団体戦1・2回戦が行われました。少年女子組手仁美香奈絵選手が優勝、少年男子組手山縣弘朋選手が準優勝、成年男子形長谷川匠選手が優勝、成年女子形中廣一恵選手が4位入賞、そして組手団体戦1回戦の対鳥取県は3-0で勝ち、2回戦の宮崎戦も3-0で勝ちました。この日の勝敗で、総合優勝の想定範囲が絞られてきました。

翌日の想定は、最悪の場合、山口県がベスト8止まりで、京都が団体組手で優勝した場合は、山口95、5点、京都94点で、1、5点差で山口県の総合優勝の確定です。

大阪が、個人戦で得点範囲(ベスト8)に来るまでに負けたおかげで、大阪が団体戦で優勝しても80点で終わりなのです。つまり、山口がベスト8以上に入れば総合優勝になるわけです。これで、ほぼ山口県の天皇杯獲得が見えてきました。

この日の夕食は、中央役員の先生方を「楊貴館」で接待し、山口県連の丸本副会長・松岡副会長・宇関相談役・白浜相談役も出席され、山下理事長・前島総務主任で対応しました。後日、多くの中央役員の先生方からお手紙・はがき・電話をいただきました。ほとんどの先生方は、山口国体の成功を賞めていただくとともに、「中央役員一人ひとりに、あいさつをしていただき、おもてなしがすばらしかった。」という内容でした。

審判員の先生については、長門市街にある「はしもと」で接待し、沖野・廣中先生・西本先生・松並先生・友弘先生・稲田先生で対応しました。

また、当日の夜、県体協から電話が入りました。「現在、山口県と東京都が接戦になっている。空手道の東京の様子は・・・。」という電話でした。翌日、東京は京都と対戦します。「予想としては、京都が勝ち上がると思われます。」と答えました。が、

予想は外れました。

8 大会最終日<10月10日(月)>

3日目、最終日です。想定外で、東京は京都に3-1で勝ったのです。山口県は、3回戦は対神奈川県で3-1で勝ち、4回戦は対愛知県で3-0で勝ちました。準決勝戦は、京都を下した東京都戦ですが、3-1で見事勝ちました。この段階で、山口県全体の総合優勝(天皇杯)が決定したそうです。

いよいよ、ファイナル決勝戦山口対大阪です。試合は2-2で、ポイント数の差で大阪が優勝しました。

総合結果、天皇杯は山口県(105点)、2位大阪府(80点)、3位京都府(66.5点)、4位東京都(53.5点)、5位山梨県(41.5点)、6位熊本県(40点)、7位宮城県(33.5点)、8位大分県(30点)でした。東日本大震災を受けた宮城県は大健闘です。宮城県安住監督も、山口県の多面にわたる配慮に感謝していました。

皇后杯は山口県(34点)、2位山梨県(32点)、3位京都府(24点)、4位愛媛県(21点)、5位東京都(18.5点)、6位大阪府(18点)、6位鳥取県(18点)、8位福岡県(16点)でした。山口県皇后杯獲得、本当におめでとうございます。

以上、山口県は天皇杯・皇后杯の両方を獲得することができました。選手の地道な努力と稽古、そして、山口県選手を優勝に導いていただいた水野監督・藤井コーチ・野村巧コーチ・野村勇二コーチ、医科学サポートの河村勝先生・小泉多加子先生、長年に渡る指導と選手の医科学サポートに感謝いたします。本当にありがとうございました。

そして、国体出場選手をサポートしてくれた選手のみなさん、国体出場をかけて悔しい思いもあったと思いますが、県選手の優勝に向けて全力でサポートしてもらいました。すばらしい協働力です。本当にありがとうございました。

また、山口国体の競技役員・運営委員・競技補助員の先生方、高校生のみなさんお疲れ様でした。そして、ありがとうございました。

最後に、何といても、この2年間スーパーアドバイザーとして山口県選手団を天皇杯・皇后杯に導いてくださった津山捷泰先生には、感謝の言葉がありません。選手強化のみならず、国体運営のノウハウまで伝授していただきました。誠にありがとうございました。

そして、形選手を中心に指導してくださった井上慶身先生、鳥取県での毎月の強化合宿での選手たちへの指導、形競技のポイント指導は勉強にもなり、また、時間無制限の厳しい指導も受け、コーチ・選手達も大変感謝しております。誠にありがとうございました。

大会期間中、県体協本部とも連絡をとってきましたが、団体戦組手準決勝戦で山口県が東京都に勝った時点で、山口国体山口県の総合優勝(天皇杯獲得)が確定したそうです。そのこともあり、県知事を初め関係者は、空手道競技に大変感謝しておられました。

9 閉会式

閉会式開始直前、津山先生から電話がかかってきました。先生は、マレーシアでの世界空手道選手権参加のため、大会終了直後、荒賀審判員の車で新山口駅に向かわれていたのです。

「沖野、山口県の総合優勝、おめでとう！本当によかったな！」というお言葉でした。今まで、叱咤激励いただいた津山先生からのねぎらいの言葉に、私は、涙が止まりませんでした。その感激の内に、閉会式が始まりました。

山下理事長から、天皇杯・皇后杯の順位・得点発表がありました。天皇杯・皇后杯の授与を山口県選手団監督水野健一先生が受けられました。感無量であります。この10年間のいろいろなことが、脳裏に浮かんできました。この間、13日からマレーシアでジュニアの世界空手道選手権大会が開催されるため、栗原副会長をはじめ関係の先生方は、宇部空港・新山口に向かわれました。この送りも県連盟の先生方が、分担して送っていただきました。誠にありがとうございました。

この後、各係の先生方は、片付け等を行われました。

冒頭に書きましたが、この随想録は、大会運営全体から見たら、ほんの一部分にしかならないと思います。各担当の先生方の記録を集結し、次世代につなぐことができたらと思っています。

10 おわりに

今後は、この総合優勝の気運にのり、県内の空手道競技が一層普及することを祈念しています。この山口県(長州)から、空手道を通して正義を貫く魂を持つ人材をひとりでも多く育てなければならない。

そして、空手道に関わる者が、社会の中で武道としての品格を更に高め、すべての社会に認められるように精進しなければならないと強く感じました。

文面でも述べましたが、たくさんの役員の方からお褒めのメッセージをいただきました。11月7日(月)には、全空連:笹川堯会長からも電話をいただき、「山口国体の成功、誠におめでとうございます。山口県空手道は、国体で終わりではなく、これからがスタートです。これから立派な人材を育てていただきたい。」との激励の言葉をいただきました。会長から直接の電話をいただき、私もびっくりいたしました。

感謝感激です。

また、山口県選手からも手紙をいただきました。「国体に向けてのこの10年間は、不安・葛藤・苦しみ・悔しさ・挫折…。しかし、国体で勝つという一心で、重い日々を過ごした。…しかし、最高の山口国体でした！」という内容でした。私は、感激しながら、うなずきながら文面を読みました。ありがとう。そして、お疲れ様でした。

最後に、中央役員の先生から、今後の山口県の課題もご指摘いただきました。

それは、「山口県連組織における人材育成」です。「若手の先生方をしっかり育てる中で、公認段位の取得・指導員等の資格・公認審判の資格等、全空連の資格を取得させていき、幅広い年齢層で、全空連の傘下組織として活動していくことが、今後の課題ですね。」という言葉をいただきました。

各先生方のご指導・ご鞭撻いただき、他県の連盟組織に負けない山口県空手道連盟になることを期待しています。